

- JFPAは6Aの実現を目指します!
- ① Adolescent 思春期保健の推進
 - ② Abortion 人工妊娠中絶の防止
 - ③ Access どこでも誰もがサービスを受けられる
 - ④ Advocacy 啓発・提言活動
 - ⑤ AIDS STI及びHIV/エイズの予防
 - ⑥ Ageing 高齢社会への対応

家族と健康

健康教育情報紙

一般社団法人 日本家族計画協会
リプロ・ヘルス推進事業本部
健康教育推進本部
協力：公益財団法人予防医学事業中央会
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 <http://www.jfpa.or.jp>
発行人：北村 邦夫 編集人：櫻田 忠宏 henshu@jfpa.or.jp
毎月1回1日発行 年購読料¥3000+税 1部¥300+税+共

今月のページ

あなたの大切なものを考えて
恩師・玉田太朗先生の急逝を悼む
ブロック別母子保健事業研修会全了終了他
目で見える日本の人工妊娠中絶統計
「前向きな子育て」のための支援
シリーズ遺伝相談⑩
海外情報クリップ他
産婦人科医による性の健康教育⑩

8面 7面 6面 4~5面 3面 2面



(6面)

(2面)

トピック

梅毒感染者が増加 20~24歳女性で2.7倍 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査
週報(EDWR2015年44号)によれば、2015年第1週から第43週(14年12月29日~15年10月25日)までに診断された梅毒として報告された症例数は2037例で、昨年同時期の1.5倍であった。

性別で見ると、男性による報告が増えている。1463例(1.4倍)、女性574例(2.0倍)で、近年は女性の感染が顕著となっている。こうした現状を受け、厚生労働省は女性向けの梅毒予防啓発リーフレットを作成。コミュニティの適切な使用の必要など、感染への注意喚起を行っている。



サル親子(写真提供=連合通信社)

謹賀新年

本年もよろしくお願い申し上げます

一般社団法人 日本家族計画協会

理事長 近北 泰男
理事 櫻田 忠宏
理事 橋田 邦夫
職員 一裕 宏夫

新春によせて

本会会長 近 泰男

読者の皆さまには、ご健勝にて新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

1954(昭和29)年に発足した本会も本年は63年目を迎え、役員一同、気持ち新たに、さらなる発展を目指して公益民間団体としての活動に邁進してまいります。

で、本年も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今、地球社会は73億という人口を抱え、さらに増え続けながらも、さまざまな問題を抱えています。

先進国と開発途上国の経済格差から生じる諸問題、地球温暖化などの深刻な環境問題、暴力的過激派集団の活動激化など、昨年は現実「イスラム国」によるパリの同時多発テロが起きています。

また、アフリカ諸国のテロを含めた紛争、シリア

などの紛争地域から逃れる難民の激増、世界各地の異常気象による災害等々、今すぐにも解決しなければならぬ問題が続発しております。

これらの問題、これら日本にとっても他人事ではなく、政治がこれにどう対応していくのか、本年も日本の政治力、特に外交力が問われる大きな問題になってくると思われます。

第二次世界大戦で海軍の特攻要員として戦争に参加し、その悲惨さを経験してきた筆者にとり、前述の地球規模で起きている問題を考えると、今の若人たちに對して、そして生まれてくる次の世代に對して、絶対に戦争

を始めること、負の遺産を残してはならないと、こいねがっております。

本会は家族計画を人権として捉え、「生む自由」「生まない自由」を堅持し、一

の子どもは周りの人たちが祝福され、待ち望まれて生まれてこなければならぬという理念の下に啓発普及活動を推進してまいりました。

安全な妊娠・出産をどうしたら確保できるか、望まない妊娠の結果である人工妊娠中絶をどうするか、生れた子どもが虐待されない社会をつくるにはどうしたらよいか、これらは山積しています。これらの課題を解決する

夢と希望を持てる 豊かな国へ向かって

を始めること、負の遺産を残してはならないと、こいねがっております。

本会は家族計画を人権として捉え、「生む自由」「生まない自由」を堅持し、一の子どもは周りの人たちが祝福され、待ち望まれて生まれてこなければならぬという理念の下に啓発普及活動を推進してまいりました。

安全な妊娠・出産をどうしたら確保できるか、望まない妊娠の結果である人工妊娠中絶をどうするか、生れた子どもが虐待されない社会をつくるにはどうしたらよいか、これらは山積しています。これらの課題を解決する

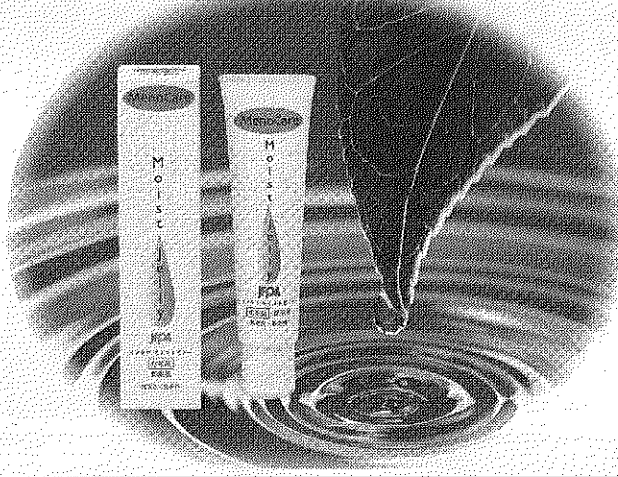
一人で悩んでいませんか。

更年期以降には、女性ホルモン(エストロゲン)の分泌低下に伴い、デリケートゾーン(陰周部)の乾燥による違和感・不快感に悩んでいる女性は少なくありません。そのような方々のために開発されたこの専用保湿ゼリーは、日常的ケアで爽やかライフをお届けします。

陰周辺の乾燥による“つらい不快感”のケアに!

JFPA メノケア® モイストゼリー《保湿液》

- ・のびがよく、塗りやすいゼリータイプです。
- ・高い保湿力を備え、潤いが持続します。



- 無着色・無香料
- 殺菌処理済
- パラベン無添加
- 50g入 1,620円(本体価格1,500円)

発売元

JFPA 一般社団法人 日本家族計画協会
TEL 03-3269-4727

製造販売元

POLA PHARMA 株式会社 ポーラファルマ
TEL 0120-12-2721(通話料無料)

あなたの大切なものを考えて

池袋エイズフェス'15 JFPA若者委員会(U-COM)活動



昨年11月23日、東京都豊島区の中池袋公園で「池袋エイズフェス'15」が開催されました(主催―東京都エイズ啓発拠点ふぉーてい)。本会が支援するJFPA若者委員会(U-COM)もエイズフェスにブースを出展し、性感染症予防啓発のための資料やコンドームの配布を行いました。当日の具体的な活動報告を、U-COMのメンバーからいただいたので、ここに紹介いたします。(編集部)

上/レッドリボンをかたどった顔出しパネルで写真撮影を行ったメンバー
下/ブースに集うU-COMメンバー



今年のエイズフェスでは「今の自分を大切にすることが大事である」ということを理解してもらえようという「あなたの大切なものは何ですか?」という質問をU-COMとして出展しました。HIV/エイズのシンボルであるレッドリボンを活用し、顔出しパネル

を作成。顔出しパネルでは、一人一人写真を撮らせていただき、撮った写真は、コンドームとU-COMの名刺と合わせて一つの冊子にして、プレゼントしました。

また、来てくださった方に、「わたしの大切なもの」を書いていただき、それを自分自身も知ることと、日常を過ごしているとき、大切なものについて考える時間というのを、少しでも多くの人たちにエイズについての知識を深められ、正しい理解が得られていることを願っています。また、来年もエイズフェスが行われると思います。今回の活動を生かし、今年を上回るようなブース出展を目指していきたいです。(櫻庭 彩心)

恩師・玉田太朗先生の急逝を悼む

本会理事長 北村 邦夫



玉田太朗先生 (2014年11月撮影)

11月27日の早朝、出勤になっても案外で済まない玉田先生のご子息から電話が入った。「父が昨夜午後9時48分に急逝しました」と。返す言葉が見つからなかった。それは、先生と交わした最後の言葉だった。その後、病床上に伏していたと聞き、再び衝撃が走った。6月に開催された本会社員総会でお会いした。救急病院に運ばれたときには、「今度、総分ほどで息を引きとった」と。玉田先生は東京大学医

理部長になった。この年、玉田先生は東京大学医学部を卒業された後、昭和35年から群馬大学の文部教官となり、産婦人科の助教授としてしばらく勤務された。草津分院で勤務されていたことから、同じ群馬つなぐという共通点もあつた。先生と交わした最後の言葉は、私が自治医科大学に入学したのが昭和47年。附属病院が開院した昭和49年から産婦人科学教室の教授として赴任し、玉田先生は奥様(裕子さん)を私は「栃木のお母さん」と呼んでいる。合掌。

Seminar Information

生きるための心の教育セミナー

思春期に関わる指導者や性教育で使える指導用教材の紹介、児童養護施設で実際に教材を活用した性教育の取り組み事例など、指導者の皆さまが今後の活動に生かせる情報をお待ちしております。

【開催日・会場】
【東京】1月23日(土)、平和と労働センター・全労連会館
【大阪】1月24日(日)、大阪労働センター・全労連会館
【名古屋】1月25日(月)、名古屋労働センター・全労連会館
【仙台】1月26日(火)、仙台労働センター・全労連会館

行動変容実践のための保健指導者養成セミナー

毎年「分りやすい」「実践に生かせる」と好評の本セミナーが、実践に使える指導技術の習得をメインテーマにしています。

【開催日・会場】
【東京】2月4日(木)～6日(土)、東陽セントラルビルホール(東京都江東区)
【大阪】3月3日(木)～5日(土)、新大阪ビル新館506号室(大阪府東淀川区)
【名古屋】3月4日(金)～6日(日)、名古屋労働センター・全労連会館
【仙台】3月5日(土)～7日(月)、仙台労働センター・全労連会館

【受講料】3万5千円(税別) ※別途教材費あり
【主催】本会、合同会社生活習慣病予防研究センター

「育てにくさを感じる親に寄り添う」スタツツ養成研修

厚生労働省の主催による「育てにくさを感じる親に寄り添う」スタツツ養成研修が開催されます。

【開催日】2月8日(月)～10日(水)
【会場】平和と労働センター・全労連会館(東京都文京区)
【受講料】無料
【対象者】保健師・助産師・看護師・保育士など養育者から相談を受ける機会のある職種

本研修ではこの課題に関する「育てにくさ」の総論を

全国を6ブロックに分け、本会と各都道府県が共催する平成27年度「ブロック別母子保健事業研究」が、今年度も開催	され、6ブロック全日程が終了した。 今年度から新たなスタートを切った「健やか親子21（第2次）」では、	支援センターの全国展開を目指す方向性が打ち出されている。 こうした背景から、6ブロック中5ブロックに
---	---	--



われない妊婦・乳幼児への保健対策」が掲げられている。また現在、妊婦・出産包括支援事業が本格的に進められ、子育て世代包括

会が開催。それぞれの地域で、地域における妊婦から出産、子育て期への切れ目ない支援の強化や、在り方について、活発な議論がなされた。

参加者の総数は、1060人。九州・沖縄地区が270人と最多で、九州・沖縄地区ではこの10年間で最も多い参加人数となった。

「嵐」から身を守る

世界人口白書2015

「世界人口白書2015」が昨年12月3日、国連人口基金（UNFPA）により公表された。今回の白書のテーマは「『嵐』から身を守る」危機にさらされている世界に住む女性と少女のための革新的計画」。白書によれば、現在、人道的援助を必要とする

ンダーに基づく暴力などのリスクは高まる。現在の妊娠婦死亡の5分の3は、紛争や危機下にある女性たちに起こっており、こうした状況下にいる女性と少女507万人が、毎日、妊娠合併症や不安定な状況での出産の原因で亡くなっているという。

人々は、億人を超えており、第二次世界大戦以降最多となっている。その4分の1は、15〜49歳の女性と少女。紛争や災害など、ひとたび危機が突

白書では、UNFPA事務局長ババトウンデ・オシヨティメイ博士が「UNFPAは常に組織を挙げて、危機やその他のあらゆる状況にいる世

生すると、女性と少女は不当なほど不利な立場に置かれてしまう。紛争や災害などによる経済的困窮から女性が性の取引をさせられたり、人身売買されたりすることになりかねない。

こうした状況を背景に、HIVを含む性感染症や望まない妊娠、妊産婦死亡と疾患、性とジェ

界中の女性と少女全てのセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルス／ライツを現実のものとすることに専心している」とし、「危機の前にも、危機下でも、終息後にも自らの社会の発展と安定に貢献できるような世界に向けて、私たちは共に努力する必要がある」と訴えた。

データ分析セミナー開催

本会が主催する「データ分析セミナー」が、昨年11月26日、東京都文京区で開催された。このセミナーは、今年度から始まったデータヘルス計画など、データを活用した保健事業を展開するための基礎となる、「データ分析をテーマとしたセミナー」。ここでは、当日行われた四つの講演の中から、厚生労働省保険局保険課・岩井恒太氏が行った「年次計画に基づく事業実施のポイント」を紹介したい。

「闇雲に分析をしても、お金がかかるだけ。計画をするにしても、分析をするにしても、当たりを付けてトライアルを起す必要がある」と、岩井氏は語った。

初めに例に挙げたある健保組合は、被保険者の約8割が女性で、20〜30代が約6割を占めている。この集団であれば、メタボリックシンドロームは少ない。実際にこの健保組合では、こうした加入者構成を踏まえて、女性に特有の疾患に対する保健事業を行った。

「分析を行うことによつて、この企業において、は乳がん検診についてしっかりと認知してもらいたい、受診してもらふ必要があると考えた。そして会社一丸となつて受診を呼び掛け、受診率の向上につながった」と語る。

この他、複数の事業所を抱える総合組合では、地域ごとに分析をし、そ

また若井氏は、単二組合で重要なポイントを説明。まず挙げられるのが、トップのコミットだという。経営者が旗を振って従業員の健康を考えているか、そういうたメツセージを送っているかが鍵となる。実行体制を組めているかも重要だ。

時に示す。単に結果だけを伝えるのではなく、データを分析し、その人にあった情報提供をすることが重要なのだ。

インセンティブを活用し、住民が参加しやすい健康プログラムを行っている自治体もある。歩いたリイベントに参加する

る。初めはこうしたポイントを目的に健康行動を起こすが、その後もしっかりと習慣化しているというデータも出てきているという。こうした取り組みは、普段から健康行動を起こす集団を広げ、また継続させることにも寄与しているのだ。

知っているようで知らない
性の健康セミナー

セックスレス、性機能障害
【受講料】千円（税別）

【プログラム】「Overview」講義1「性の悩み、最新線!!」最新の事例から見る性のトレンド(女性編)、「講義2」同(男性編)、「まとめ・質疑応答」多様化する

【日時】2月14日(日)13時20分
 17時 る性の悩み！ 現場でどう対
 応していくか「

【会場】御茶ノ水ソラシティ
Tokia city Hall WEST (東京
都千代田区)

【定員】180人

【講師】北村邦夫(本会理事
長)、関口由紀(LUNA骨

中高年女性保健セミナー

生涯を通じて女性の健康をサポートするために

本セミナーは健康管理や健康相談、保健指導を担当して

骨粗鬆症、ホルモン補充療法
や漢方・サプリメント、セク

科大学附属研究所プレスト&
イメージング先端医療センタ

【講師】麻生武志（東京医科
山崎夫（小山崎夫クリニック
シユアル・ヘルスなど
一附属クリニック院長）小

女性ならでは体の変化、歯科大学名誉教授）、麻生佳津子（東京トータルライフ構千葉医療センター産婦人

【開催日】 2月19日(金)～21日
学医学部附属病院老年病科教
【対象者】 保健師、助産師、

【会場】飯田橋レインボービ
授)、中田真木(三井記念病院
産婦人科医長)、鈴木隆雄(桜
看護師、医師、栄養士、看護
職員、相談員等、保健、医療、

【大会議室】(東京都新宿区)
【受講料】3万円(税別)
美林大学加齢・発達研究所
長・国立長寿医療研究センタ
【主催】本会
教育、福祉に携わっている方

【トピック】女性の心の変化
―総長特任補佐―、武井正子
（順天堂大学名誉教授、宮城
団法人日本助産師会、一般社
会）

シクシンドローム、尿失禁、悦子（横浜市立大学大学院医学研究科がん総合医科学教授）
PO法人更年期と加齢のヘル

授、福田護(聖マリアンナ医
スケア
ローム、子宮・卵巣の病気、

一
は

35

58

情報も

検索

オン



ミナ
合わせ
L
)478
X
)265
詳しい情報
マ
アートフ
は
55!!

T E
 269
 F A
 267
 !
 言
 から
 し込み
 す。
 ミナー
 スマ
 から
 こち

本会主
のお問
3(3
3(3
んたん
会H P
EB申
きます
PA セ





日本の人工妊娠中絶統計

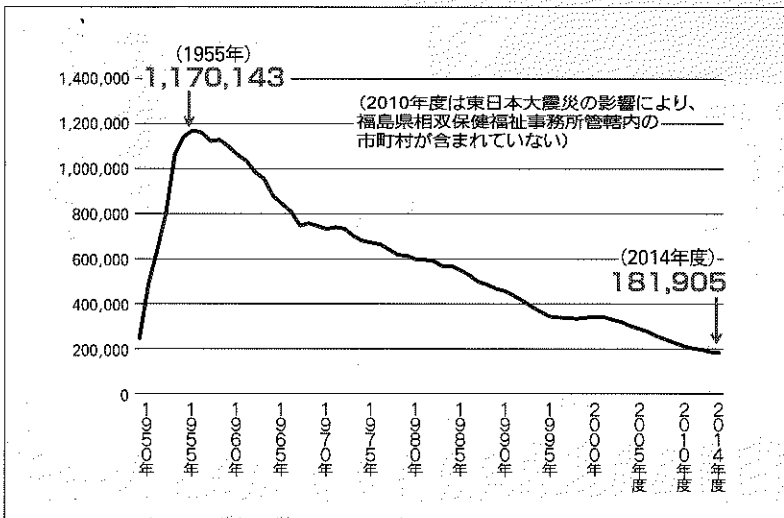


図1 わが国における人工妊娠中絶実施件数の年次推移 (1949年～2014年度)

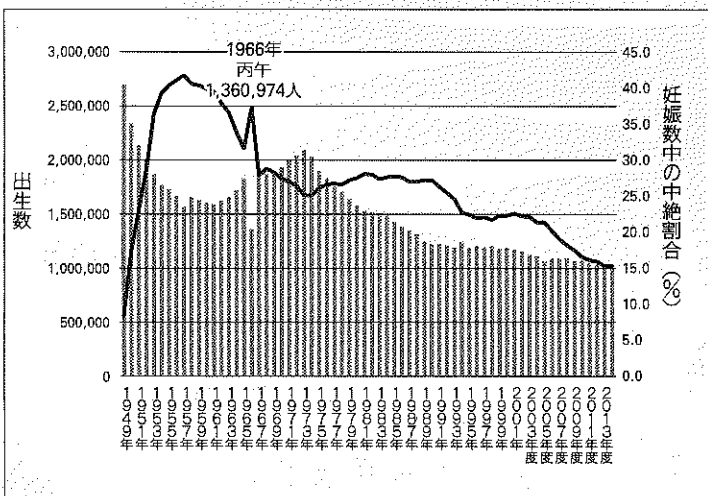


図2 わが国における出生数と妊娠数(出生数+中絶数)の中絶割合の推移 (1949年～2014年度)

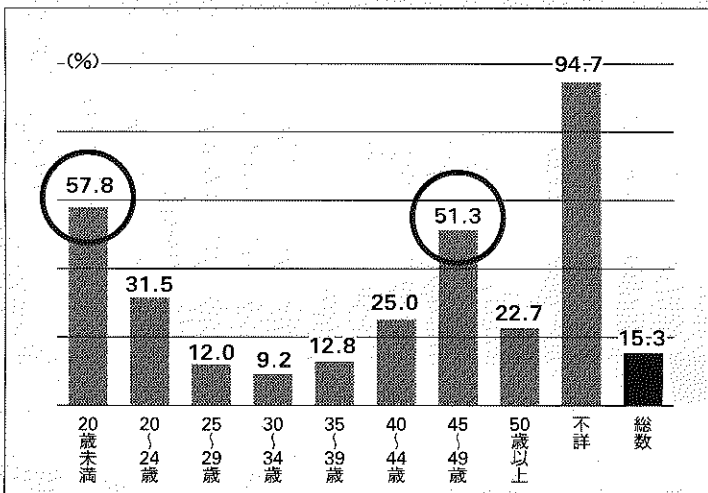


図3 妊娠100に占める中絶の割合(%) (平成26年人口動態統計、平成26年度衛生行政報告例)(妊娠総数=出生数+中絶数)

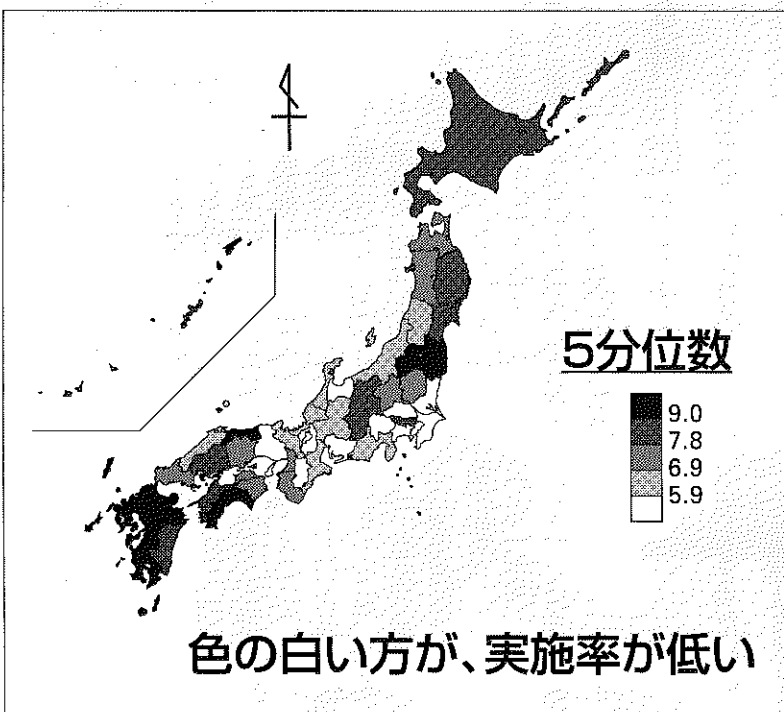


図5 都道府県別人工妊娠中絶実施率 (2014年度)

中絶によって丙午の出生数が減少した

わが国の中絶統計は2002年以降衛生行政報告例という報告様式に変更となり、「年度」統計となり、直近14年度には18万1905件となっている(図1)。

図2には出生数と妊娠数(出生数+中絶数)の中絶割合の年次推移を示した。特筆すべきは、1966年の丙午(ひのえつま)での出生数の落ち込みである。丙午の年は迷信と中国の干支の属性から、産むことが敬遠されるという歴史がある。ところが、出生と中絶のデータを見る

表1にあるように、この産み終え世代での中絶数増加は顕著であり、2014年度を見ると、前年比総数では43.48%の増加が確認されている。調査の結果で明らかにしたように、性交回数が増加していること、一方、40～44歳では81件、45～49歳は44件増加しており、「いきなり妊娠」を招いていることも多い。

表1 人工妊娠中絶件数の年次推移

(単位: 件)

	20年度 (08)	21年度 (09)	22年度 (10)	23年度 (11)	24年度 (12)	25年度 (13)	26年度 (14)	前年 増減数	前年 増減率
総数	242,326	226,878	212,694	202,106	196,639	186,253	181,905	-4,348	-2.3
20歳未満	22,837	21,535	20,357	20,903	20,659	19,359	17,854	-1,505	-7.8
15歳未満	347	395	415	406	400	318	303	-15	-4.7
15歳	976	947	1,052	1,046	1,076	1,005	786	-219	-21.8
16歳	2,771	2,548	2,594	2,831	2,701	2,648	2,183	-465	-17.6
17歳	4,247	4,031	3,815	4,099	4,038	3,817	3,283	-534	-14.0
18歳	6,071	5,683	5,190	5,264	5,344	4,807	4,679	-128	-2.7
19歳	8,425	7,931	7,291	7,257	7,100	6,764	6,620	-144	-2.1
20～24歳	56,419	51,339	47,089	44,087	43,269	40,268	39,851	-417	-1.0
25～29歳	51,726	48,621	45,724	42,708	40,900	37,999	36,594	-1,405	-3.7
30～34歳	49,473	45,847	42,206	39,917	38,362	36,757	36,621	-136	-0.4
35～39歳	43,392	41,644	39,964	37,648	36,112	34,115	33,111	-1,004	-2.9
40～44歳	17,066	16,544	15,983	15,697	16,133	16,477	16,558	81	0.5
45～49歳	1,379	1,302	1,334	1,108	1,163	1,237	1,281	44	3.6
50歳以上	22	27	25	21	14	22	17	-5	-22.7
不詳	12	19	12	17	27	19	18	-1	-5.3

中絶の地域格差

全国(総数)の中絶率は6.9%。最も高いのが鳥取の10.4%で、熊本(10.0%)、鹿児島(9.7%)、福岡(9.5%)と続く。一方、低いのは奈良(3.4%)、埼玉(4.3%)、千葉(4.7%)、滋賀(4.9%)であった(図4)。

これをマップで示した(図5)。中絶率は9.0%以上、7.8%～8.9%、6.9%～7.7%、5.9%～6.8%、5.8%以下というように5分位数で色分けしたもので、色の白い方が中絶率の低い地域となっている。西高東低と一刀両断にしてしまつのはいささか乱暴であるが、地域格差は歴然としている。

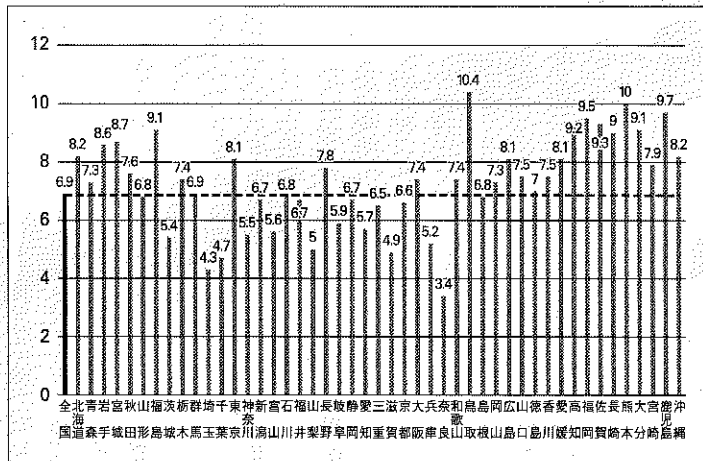


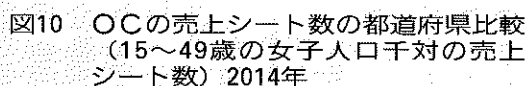
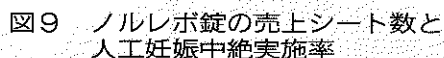
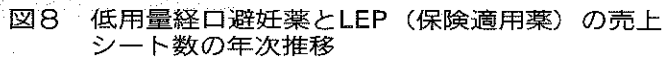
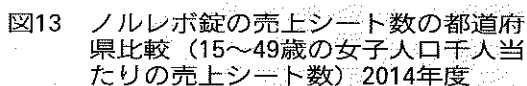
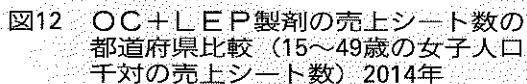
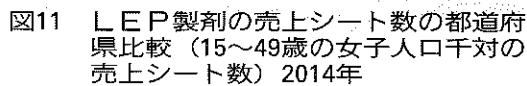
図4 都道府県別人工妊娠中絶実施率 (2014年度)

昨年11月5日、厚生労働省から「平成26年度衛生行政報告例」(母体保護関係)が発表された。同年度の人工妊娠中絶実施件数(以下「中絶数」)は18万1905件、中絶実施率(以下「中絶率」)は6.9%で、1949年以降最低を記録した(前号トピック既報)。55年の中絶数は117万件を数えており、54年に創立した本会が「Every child a wanted child」(生まれてくる子はみな待ち望んで生まれてくる子であってほしい)をスローガンに戦ってきたことを顧みると、まさに隔世の感がある。今号では、2014年度の中絶統計などを駆使して「目で見える日本の人工妊娠中絶統計」をまとめた。

(本会理事長 北村邦夫)

出生数と中絶数を足し合わせて妊娠総数と定義し、そのうち中絶がどれくらい割合を占めるかを見る

1、熊本(8.4%)、北海道(8.3%)、長崎(8.2%)。低率地域は奈良(2.9%)、山梨(3.5%)、富山(3.7%)、茨城(4.1%)となっている。



(売上シート数：15歳から49歳の女子人口千対の年間売上シート数)

相関係数		-0.150	-0.142	-0.151	-0.466
------	--	--------	--------	--------	--------

47都道府県については、14年（フルレボ錠）の売り上げデータと中絶率との間に相関関係があるかを見た。ピアソンの順位相

近代的避妊法の普及と中絶率との間に相関はあるのか

関係数の検定を行ったところ、低用量OC、LEP剤、低用量OCとLEP剤の足し合わせ、ノルレボ錠について都道府県別の個々の売り上げデータと中絶率との間には相関は認められなかった。しかし、全国を8の地方に分けて中絶率と各種避妊率が分かった(表2)。

1. 低用量OC (図10) 愛媛53・3、鹿児島55・8。

2. 低用量OCの売り上げシートの数を見ると、最多は東京で349・9、青

3. 低用量OC+LEP 剤 (図12)

ノルレボ錠の売り上げ
シート数を見ると、上位
は東京7・9、宮城5・
7、富山5・0。下位は
鳥取0・8、愛媛1・

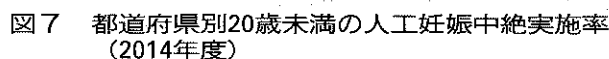
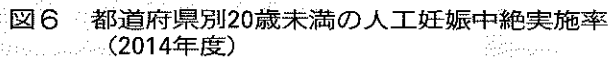
1999年には低用量経口避妊薬(OC)が、2008年と10年には月経困難症の適用を有する低用量エストロゲン・プロゲステン製剤(LEP剤)が、11年に緊急避妊薬「ノルレボ錠0・75mg」がそれぞれ発売されている。いずれも高い避妊効果を期待できる近代

的避妊法である。これら避妊薬の普及が中絶減少に貢献することは先行研究からも明らかである。発売各社から寄せられた売り上げデータをもとに、中絶率との関係を探った。OCが発売される以前から中絶率は減少傾向にあったことから、単

9)。

それでは、地域格差についてはどうだろう。低用量OCとLEP剤、ノルレボ錠の普及が、都道府県別中絶率にどのような影響を及ぼしているのかを探った。低用量OCとLEP剤については14年

の1年間、ノルレボ錠は14年度統計であること。ある女性は低用量OCを数年間服用している、ある女性は12月から服用を開始した。これらが混在していることを承知の上で、生殖年齢と呼ばれる15～49歳の女子人口千人当たりの売り上げ状況を計算してマップにまとめた。	森339・0、北海道264・5、愛知254・7と続く。最も低いのは島根101・1で、宮崎110・5、福井112・6となっている。	LEP剤にも避妊効果 が期待できることから、中絶減少に寄与する可能性は高い。上位は東京476・7、青森420・6、北海道399・0、下位は沖縄157・6、鹿児島176・2、宮崎179・8。
1. 低用量OC (図10)	2. LEP剤 (図11)	4. 緊急避妊薬「ノルレボ錠」 (図13)
8.	上位3位までは北海道134・4、群馬127・1、東京都126・7。下位は沖縄41・7、愛媛53・3、鹿児島55・8。	ノルレボ錠の売り上げ シート数を見ると、上位



海外情報クリップ

米国の緊急避妊薬(EC)の処方実態

◆主流はレボノルゲスト

米国では、レボノルゲスト(ワンステップ)が発売されたとき、処方箋なしで購入できるのは17歳以上の女性とされていまし

た。それが現在では後発品(ジェネリック)のECも発売されて年齢制限はなくなり、誰でも薬局で入手することができるようになりました。

米国は10代女性の望まない妊娠や出産が先進国の中で極めて高く、ECをより入手しやすい環境を整えるためです。しかし、避妊対策の中で重要なECの知識と避妊教育を思春期男女の間に浸透させることであると考えられています。

そこで医師で構成される「EC調査グループ」は、まず各診療科別に医師のEC処方実態を調査しました。このインターネット調査から得られた医師1684人(回答率

52%)の処方データを分析した結果、レボノルゲストを主として処方する医師の割合は、婦人科医(リプロダクティブヘルス専門医)が81%、一般家庭医が69%、救急外来で74%と最も多く、内科医は42%、小児科医は55%でした。

一方、抗黄体ホルモン剤の酢酸ウリプリスタル(UPA・日本では未発売)や銅付加IUDは全体で14%と極めて少ないことがわかりました。婦人科医の中で銅付加IUDを主として処方する医師の割合は36%でした。これらの結果から、避妊効果が最も高いとされるIUDやUPAよりも、レボノルゲストがEC

の処方実態であることがわかりました。また、3ヵ月後の再診時から経口避妊薬(OC)の使用を開始したケースが多かったという事です。

緊急避妊薬を求める女性のニーズは、次に、家族計画クリニックを受診する思春期女性の立場から見た場合はどうでしょうか。これら多くの女性は、自分自身が妊娠したかどうかを医師や看護師と直接対面して聞きたい。「思春期女性の全体を対象にした一般的な説明ではなく、特定の境遇にあるもの同士で希望する」というように、時間をかけて、また相談できる環境で教示してほしいというものでした。

参考 Batist P. et al. Contraception. 2015 Sep.

高齢女性の性

◆半数以上は性生活満足

「高齢女性の10人のうち6人は活発な性生活を送っている」という結果を、ピッツバーグ医療センターのホリー・トーマス医師が発表しました。

トーマス医師は、28歳から84歳の米国女性約2100人からデータをまとめ、60代と70代の性生活満足度を30歳と40代の女性と比べて比較したところ、ほとんど差がないことがわかりました。

研究者らは、「加齢とともに性行動は自然と低下するものと一般に思われているが、必ずしもそうではない。性行動は高齢女性にとっても重要な日常生活の要素である」と報告しました。

60歳を超える高齢女性の中で、「私は愛するパートナーを持つている」と回答した女性は、これを研究者らは「ロマンチックなパートナー関係」と表現しています。また、パートナーのいない女性に比べて約8倍の性交渉が行われていました。さらに、性行動が活発な高齢女性のうち13%は複数のパートナーがいることもわかりました。

研究報告では、「例えば60歳未満の女性は性行動レベルが低い、など」と決めつけてはいけません。更年期を過ぎた女性にと

長期作用型避妊法の推奨

—米国産婦人科学会—

◆LARCとは

米国産婦人科学会の長期作用型避妊法ワーキンググループは、IUD・IUSやインプラントなどの積極的な使用を推奨する意見書を公表しました。

これらの避妊法は長期作用型リバーシブル避妊法(LARC)と呼ばれており、効果は数年にわたって持続し、また、抜去すれば生殖機能が戻り、妊娠可能になります。

LARCは避妊効果が極めて高く、何よりも性交渉の相手の避妊に依存せず、服薬コンプライアンスが要らないことが大きなメリットです。反復中絶を繰り返す女性や、毎日あるいは毎回の避妊法の使用を続けられない女性には、特に適しています。

しかし、LARCについての女性の間の認知度はまだ低く、医療提供者も積極的に勧めていません。このような状況から同学会では以下の推奨を公表して、普及促進を目指すことになりました。

●医療提供者は、望ましい妊娠リスクのある女性に対してカウンセリングを行うときにはLARCも選択肢に入れること

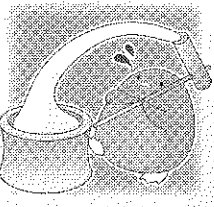
●LARCの適応対象には思春期女性や未婚産婦も考慮すること

●保険適用や費用償還の可能性を検討すること

●地域の保健施設や行政が行う家族計画プログラムを支援すること

●LARC装着法に習熟すること

参考 Committee opinion ACOG No.642, 2015. 【翻訳Office Ob-Gyn】



児童相談所への虐待報告数の増加(子ども虐待による死亡事例等の検証結果(第10次))にある0日・0ヵ月児の事例11人(うち、望まない妊娠に起因するものが7割)といわれています。数は少ないものの、電話相談にもその兆しを感じるものとあります。妊娠が全てハッピーな形に帰結するわけではないことを問

近に感じている者として、自分が何歳で何人産みたいか(思い通りにならないこともありますが)計画を立てることも大切なことだと思ふ事例からのお話です。

産んだばかりの新生児を放置しその母親が逮捕されるといふニュースを目にするたびに、「罰せられるのと同じくして母親だけなのだろうか。相手の男性にその責任はないのか」という気持ちを持つことができません。親は、学校は、友人は異変

に気が付かなかったのかと思ふと同時に、スマートフォンを使った文字だけの付き合いがこのような事件を増加させているのではないかと、時間的に追いつけず、精神的に追い越されているように感じています。緊急避妊の相談は最終月経、月経周期、避妊の状況、性交渉のあった日時などを尋ねて、緊急避妊薬の処方施設や今後の避妊に関する情報提供などを行います。

確実に妊娠が回避できたと分かるまで、当事者は緊張と不安を強いられることになり、泣きながら、妊娠しても「親には言えない」「どうし

ても育てられない」と訴えられ、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。



診療は毎週火、金、第2土曜

か心配になります。思春期電話相談には、妊娠不安の相談も入りま「思春期」と銘打っていても思春期を超えた成

に気が付かなかったのかと思ふと同時に、スマートフォンを使った文字だけの付き合いがこのような事件を増加させているのではないかと、時間的に追いつけず、精神的に追い越されているように感じています。緊急避妊の相談は最終月経、月経周期、避妊の状況、性交渉のあった日時などを尋ねて、緊急避妊薬の処方施設や今後の避妊に関する情報提供などを行います。

確実に妊娠が回避できたと分かるまで、当事者は緊張と不安を強いられることになり、泣きながら、妊娠しても「親には言えない」「どうし

ても育てられない」と訴えられ、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

男女ともに正しい知識を持ち、実践する。それを浸透させるためには、幼いうちから教育現場での性教育がさらに活発に行われる必要があると、供でできる情報交換は重要だが、できるだけ相談者の気持ちに寄り添い対応するよう心掛けています。妊娠の背景にはいろいろな事情があるかと思ひます。ただ一つ言えるのは、妊娠は女性だけの成立し得ないが、妊娠を引き受けるのは女性だけという事です。男性からの相談もまれにありますが、当事者として切迫した様子は感じられないように思います。

うるおい不足によっておこる性交時の痛みや違和感を緩和。

リューブゼリーは、あなたをいたわる局部用潤滑ゼリーです。

リューブゼリー

さらっとした自然なうるおい。

内容量55g 1,000円(税別)

リューブゼリー

ヒアルロン酸Na・コラーゲン配合でうるおい長持ち。

リューブゼリー Excellent

内容量30g×2本 2,000円(税別)

リューブゼリー

とろっとなめらかに広がる温感タイプのゼリー

リューブゼリー Hot

内容量55g 1,000円(税別)

局部のうるおい不足に!

- 無臭・無色透明
- 自然なぬめらかな使いごこち。
- さらっとした水溶性。
- 殺菌処理済。
- アレルギーテスト済。

※リューブゼリーは、お近くの薬局・薬店・ドラッグストアの「衛生用品コーナー」にてご購入いただけます。またホームページからもお問い合わせいただけます。

うるおい不足は誰にでも起こります。

- 更年期や加齢に伴う身体的な変化
- 職場・家庭におけるストレスの蓄積
- 不規則な生活、過度なダイエット
- 授乳期・出産後

産婦人科医による性の健康教育「私のキーワードはこれだ!」その10 生きてさえいれば、いつかきつと!

アトラスレディースクリニック(東京都杉並区) 塚田 訓子

女子少年院での性教育

杉並区高円寺の駅前。私が性に関する講演を、小さな婦人科クリニックを開業して5年がた、始めたのは、今から15年ちました。現在は、主に、ほっと前。医局から派遣された休日の月曜日を利用して、女子少年院「紫明女」で、性の健康教育を行っています。



大学での性教育風景

自殺なんてもつたない

子どもたちに性のお話を、するに当たり、常に肝に銘じていることは、どんなに配慮をしたつもりでも、その講演によって、この中の数名を傷つけてしまう可能性がある、ということ。性虐待や性被害を受けたことのある子ども、すでに中絶の経験がある子ども、家族や友人との関係がうまくいっていない自分の居場所、そこにもないと思っている子ども。同じ学年、クラスの中にもさまざまな環境で暮らしている子どもたち。性に関するト

ネット恋愛と草食系

スマートフォンやタブレットの普及で、これまでに出会うことがなかった遠い地域で、同様に、避妊や性感染症の経験がある子ども、家族や友人との関係がうまくいっていない自分の居場所、そこにもないと思っている子ども。同じ学年、クラスの中にもさまざまな環境で暮らしている子どもたち。性に関するト

2月の母子保健指導員研修会

【テーマ】「子どもに与える性被害の予防と多目的ホール(東京都新宿区) 宿区」
【講師】原田正平(国立成育医療研究センター) 師などの有資格者
【日時】2月9日(火)13時30分~15時30分
【参加費】当日参加300円(会費以外で当日参加希望の方は、必ず事前に電話またはファクスで問い合わせ)
【問い合わせ】本会 03(3269)4727 03(3269)2658 ※年間予定は、本会HPをご覧ください。

読者の声

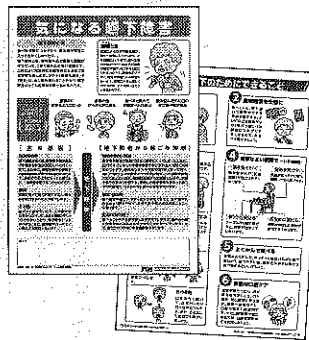
前号では、8面の連載「産婦人科医による性の健康教育」私のキーワードはこれだ!」(上村茂仁先生)の記事に対し、皆さまから多くの投稿をいただきました。

今月の人 塚田 訓子

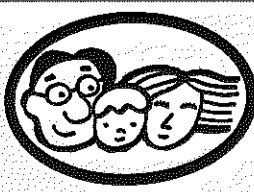
1999年旭川医科大学医学部卒。札幌医科大学付属病院産婦人科、レディースクリニックぬまのはた院長等を経て、2010年より現職。静修会荒川寮「女性の健康を考える会」講師、東京産婦人科医会学校保健委員。



高齢者向け新教材 気になる嚥下障害



食べ物が喉につかえたり、飲み物が気管に入ったり、むせてしまったり。こういった、物を飲み込む過程に問題が生じてうまく飲み込めない状態を嚥下障害と呼びます。食道に入るべき飲食物が誤って気管に入る、いわゆる誤嚥が問題となっています。日本人の死因の第3位は肺炎。このう



ジャフパ情報

70歳以上では、約8割が誤嚥性肺炎で亡くなっている。誤嚥性肺炎とは、誤嚥した食べ物や唾液などが、細菌やウイルスが気管や肺に流れ込んで起こる肺炎です。嚥下障害の多くは、脳梗塞や脳出血などの脳血管疾患が原因といわれています。しかし、加齢に伴って筋力が落ちると、飲み込む能力は多くの

本会研究倫理審査委員会のご案内

本会には研究倫理審査委員会が設置されており、研究倫理審査を希望される方、研究を始めた計画研究センター 03(3269)2694



かしこく、正しく、自分らしく あなたが選ぶ避妊スタイル

このサイトはOC(低用量経口避妊薬)や避妊についての正しい知識を身につけていただくことを目的としています。

<http://www.hinin-style.jp> 避妊スタイル 検索



MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア <http://www.msd.co.jp/>

2015年2月作成
MAV15A0003-0220